

こおりはどうしてとける

れいぞう庫から出したこおりを、しばらくおいておくと、いつのまにか水になっています。あんなにかたいこおりは、どうしてとけて、水になるのでしょうか。

水は、とても冷たくすると、こおります。れいぞう庫の中は、水がこおるくらい冷えているので、水は、かたいこおりのままでいられるのです。

ところが、こおりを、あたたかい所に出すと、こおりは、まわりの空気から「熱」をもらいます。熱をもらったこおりは、少しずつやわらかくなり、やがて水にもどります。これが、「とける」ということなのです。

だから、こおりは、手のひらの上や、日なたのようなあたたかい所ほど、早くとけます。反対に、寒い冬の外に置いておくと、なかなかとけません。もらえる熱が、少ないからです。

つまり、こおりがとけるのは、まわりからもらう「熱」のはたらきなのです。身のまわりのふしぎも、少し立ち止まって考えると、そのわけが見えてきます。



School Stock 『なごらばいしつふけ』より

(1) この文しよは、おもに何について書かれていますか。正しいものを一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア れいぞう庫の作り方

イ こおりがとけて水になるわけ

ウ おいしい水の飲み方

エ 冬の寒さのきびしさ

(2) あたたかい所に出したこおりは、まわりの空気から何をもらいますか。文しよから書きぬきましよう。

(3) こおりが早くとけるのは、どんな所ですか。正しいものを一つえらびましよう。

ア 寒い冬の、外

イ れいぞう庫の中

ウ 手のひらの上や、日なたのあたたかい所

エ 風の強い所

(4) 「とける」とは、こおりがどうなることですか。文しよの言葉を使って書きましよう。

(5) この文しよを読んで、心にのこったことや考えたことを書きましよう。

例えば

「こおりがとけるのに、熱がかんけいしていると知って、おどろいた。」

「身のまわりのふしぎにも、ちゃんとわけがあると分かった。」

こおりはどうしてとける

解答

3年 説明文 4番

名前

れいぞう庫から出したこおりを、しばらくおいておくと、いつのまにか水になっています。あんなにかたいこおりは、どうしてとけて、水になるのでしょうか。

水は、とても冷たくすると、こおります。れいぞう庫の中は、水がおおるくらい冷えているので、水は、かたいこおりのままでいられるのです。

ところが、こおりを、あたたかい所に出すと、こおりは、まわりの空気から「熱」をもらいます。熱をもらったこおりは、少しずつやわらかくなり、やがて水にもどります。これが、「とける」ということなのです。

だから、こおりは、手のひらの上や、日なたのようなあたたかい所ほど、早くとけます。反対に、寒い冬の外に置いておくと、なかなかとけません。もらえる熱が、少ないからです。つまり、こおりがとけるのは、まわりからもらう「熱」のはたらきなのです。身のまわりのふしぎも、少し立ち止まって考えると、そのわけが見えてきます。



School Stock 『ななごころのこころ』より

(1) この文しよは、おもに何について書かれていますか。正しいものを一つえらび、記号に○をつけましょう。

ア れいぞう庫の作り方

イ こおりがとけて水になるわけ

ウ おいしい水の飲み方

エ 冬の寒さのきびしさ

(2) あたたかい所に出したこおりは、まわりの空気から何をもらいますか。文しよから書きぬきましよう。

熱

(3) こおりが早くとけるのは、どんな所ですか。正しいものを一つえらびましよう。

ア 寒い冬の、外

イ れいぞう庫の中

ウ 手のひらの上や、日なたのあたたかい所

エ 風の強い所

(4) 「とける」とは、こおりがどうなることですか。文しよの言葉を使って書きましよう。

(例) こおりが、まわりから熱をもらって、やわらかくなり、水にもどること。

(5) この文しよを読んで、心にのこったことや考えたことを書きましよう。

(例) こおりがとけるのに、熱がかんけいしているとは知らなかった。身のまわりのことにも、ちゃんとわけがあるのだと分かった。

例えば

「こおりがとけるのに、熱がかんけいしていると知って、おどろいた。」

「身のまわりのふしぎにも、ちゃんとわけがあると分かった。」

解答・解説 こおりはどうしてとける（3年・説明文）

問1 イ

はじめに「どうしてとけて、水になるのでしょうか」と問いかけ、そのあとで、熱のはたらきで水にもどることを説明しています。

問2 熱

三つ目の段落に「まわりの空気から『熱』をもらいます」とあります。

問3 ウ

四つ目の段落に「手のひらの上や、日なたのようなあたたかい所ほど、早くとけます」とあります。あたたかい所ほど、もらえる熱が多いからです。

問4 （例）こおりが、まわりから熱をもらって、やわらかくなり、水にもどること。

三つ目の段落の「熱をもらったこおりは……水にもどります。これが『とける』ということ」をもとに書きます。

問5 （例）こおりがとけるのに、熱がかんけいしているとは知らなかった。身のまわりのことにも、ちゃんとわけがあるのだと分かった。

おどろいたことや気づいたことが、文しょうの内ようとつながって書けていれば正かいです。